

教材「三重の文化」 活用授業例

**国語、社会科（地理的分野・歴史的分野・公民的分野）
理科、技術・家庭科（家庭分野）**

平成24年11月16日（金）

教材「三重の文化」活用授業実践推進会議作成

教材「三重の文化」活用授業実践推進会議開催要項

1 趣旨

県内の全公立中学校において、教材「三重の文化」を活用した授業実践の交流、成果の普及を図ることにより、中学校の国語科、社会科、理科、技術・家庭科、総合的な学習の時間等における教材「三重の文化」の活用を推進する。

2 主催

三重県教育委員会

3 協議内容

- ・教材「三重の文化」を活用した郷土教育に関わる授業実践の取組の現状と課題について
- ・教材「三重の文化」を活用した具体的な授業の構成について
- ・平成25年度の取組について

4 出席者

- ・三重大学教育学部 永田 成文 教授
- ・市町等教育委員会郷土教育担当者及び教職員代表者
- ・三重県教育委員会事務局担当者

5 会議の開催

会議は年間1回開催するものとする。(平成24年度開催)

教材「三重の文化」を活用した授業案作成一覧

教科	分野	単元(題材)	本時のテーマ
	内容	この単元(題材)で扱う教材「三重の文化」の題材例	本時において中心的に扱う教材「三重の文化」の題材
国語		奥の細道	俳句と松尾芭蕉
	伝統的な言語文化 詩歌		松尾芭蕉
社会	地理的分野① (ア)自然環境を中核とした 考察	日本の諸地域 中部地方 木曾三水と治水 輪中	三重のお茶伊勢茶 お茶栽培(伊勢茶)、大台茶、三重のお茶伊勢茶
	地理的分野② (イ)歴史を中核とした考察	日本の諸地域 近畿地方 亀山宿から関宿へ、三重県の歴史街道、 伊勢袖宮、伝統工芸	京阪神と私たちの三重県 液晶テレビ工場、三重の歴史街道 【伝統工業】四日市萬古焼、鈴鹿墨、伊勢型紙、伊勢根付、伊賀くみひも、伊賀焼、
社会	地理的分野③ (ウ)産業を中核とした考察	日本の諸地域 中部地方 四日市港、石油化学コンビナート、電力の町川越、 自動車産業、液晶テレビ工場	三重にみられる二つの工業
	地理的分野④ (エ)環境問題や環境保全を 中核とした考察	日本の諸地域 近畿地方 尾鷲ヒノキ、亀山宿から関宿、伊勢えび 志摩水道	環境に配慮した近畿地方の農林水産業
社会	歴史的分野① 中世の日本 民衆の成長	室町幕府と下剋上 田丸城跡、北畠氏城館跡、大台町における北畠氏	室町文化の広がり 観阿弥創座の地
	歴史的分野② 近世の日本 江戸時代(Ⅰ)	産業や交通の発達と幕府政治の変化 松尾芭蕉、本居宣長、 大黒屋光太夫	農業や諸産業の発達 七里の渡跡、松阪商人と松阪木綿、河村瑞賢
社会	歴史的分野③ 近世の日本 江戸時代(Ⅱ)	社会の変動や欧米諸国の接近 松阪商人と松阪木綿、本居宣長	外国船の接近と幕府の衰退 大黒屋光太夫
	歴史的分野④ 近代の日本と世界 二度の世界大戦と日本	第一次世界大戦と戦後の世界 尾崎行雄(号堂)	世界大戦の終結と平和への動き
社会	公民的分野 私たちと現代社会	わたしたちの生活と文化 【伝統工芸】四日市萬古焼、鈴鹿墨、伊勢型紙、伊勢根付、伊賀くみひも、伊賀焼など 【年中行事】竈方行事、麻加江かんこ踊り、松明調進行事など	くらしに生きる三重の伝統文化
	第2分野 大地の成り立ちと変化	大地は語る ミエゾウ、マコモ、那智黒石、篠立の風穴	大地の変化を推測しよう 月出の中央構造線
技術 家庭	家庭分野 食生活と自立地域の食文化	食生活と自立	三重の食文化 さんま寿司、熊野灘とさんま寿司、押し寿司、 三重ブランド、三重のお雑煮

国語

単元名：おくのほそ道

本時の内容：芭蕉と俳句

関連する箇所：松尾芭蕉【P72】

【本時のねらい】

- ・歴史的背景を想像しながら「おくのほそ道」を読み、作者のものものの見方や感じ方を読み取る。
- ・語句の効果的な使い方や表現のしかた、文体の特徴に注意して読み味わい、古典に親しむ。

国語1班 多くのほろ道 芭蕉と俳句

次	学習内容	指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容を提示し、俳句についての基礎知識を確認する。 「松尾芭蕉」について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「芭蕉」の句を提示する。 作者の松尾芭蕉であること、季語、五七五のリズム等を思い出させる。

教材「三重の文化」を活用する。

- 三重県伊賀市出身である。
- 独自の俳諧を確立させた。
- 多くの旅行文を残した。

【活用のポイント】
 教材「三重の文化」の本文（P72）を読んで、教科書で取り扱われている教材と郷土とのつながり等について、より詳しい情報を読み取り、興味・関心を深める。

まつ お ば しょう
松尾芭蕉

人物

 伊賀市

俳句で、日本だけでなく世界でも有名な松尾芭蕉は、伊賀を代表する人物の一人です。伊賀市では、毎年芭蕉の命日である10月12日に、俳聖殿（俳聖とは俳諧の聖人という意味で、芭蕉の生誕300年を記念して建設された、芭蕉の旅姿をあらわした建物）において芭蕉祭を開催しています。また、この芭蕉祭にあわせて顕彰俳句の募集を行っており、毎年中学生も俳句をつくるなど市民の多くが俳句に親しんでいます。

活用

社会科地理的分野①

単元名：日本の諸地域 中部地方

本時の内容：三重のお茶伊勢茶

関連する箇所：お茶栽培（伊勢茶）【P15】

大台茶、三重のお茶伊勢茶【P50】

【本時のねらい】

- ・お茶栽培を通じて、地域の地形や気候などの自然環境と農業の発達との関係について考え、地域の産業に対する興味を高め、その特色を理解させる。

2班 [君ならどうする茶!?!]

活用

導入 「三重の文化」P.50 お茶畑の
写真を掲示し、気付いたことを発表!

- ・田がない
- ・電柱の上はアホウ!
- ・山の近く
- ・畑?? 野菜はなあ??
- ・列になっている

教科書P.211 茶の生産のグラフをたたく!!

山 静岡県 山 鹿児島県 山 三重県!!

展開1 お茶の栽培条件を地形図で読み取る!

(地形図)

◎地形記号(△)を探そう! → 緑色でぬる

- ・山のふもと → 扇状地
 - ・川からはなれている
 - ・田がないところ
- 水はりの良い所
||
水が通らない

展開2 三重のお茶「伊勢茶」がもともと売れる
ための工夫を、班で考えよう!!

- ・宣伝用(テレビ、新聞の掲載)
- ・パッケージで販売
- ・安く売る・お土産用(産地直売)



【活用のポイント】
 教材「三重の文化」に掲載されている写真
 (P.50)を活用し、情報を読み取る学習
 活動を取り入れ、思考を促す。

活用と関連 する作業

【活用のポイント】
 写真を補助資料として、地形図
 の読解を促す。また、地形図か
 ら読み取った情報を確認する資
 料として活用する。

発問

教師の手紙

「飲む量ばかりが知られている…」

- ・カバ子? → そのままお茶?!
- ・抹茶!? → アイス, 抹茶, お餅!
カステラ, ケーキ, ナン, 和コ
餅, キョウモロ etc...

「売れるための工夫」についての討論

「高からたら売れないのか?」

- ・め, ちゅうまい, 良い香り,
- ・珍しい

まとめ 「三重の文化」, P50 COLUMNをもとに
 かぶせ茶, 加工用原料茶としての商品化
 深蒸し煎茶
 P15「お茶栽培(伊勢茶としてのブランド化)」

活用

COLUMN 三重のお茶「伊勢茶」

コラム

三重のお茶(伊勢茶)は、茶の栽培面積、生産量、生産額ともに全国第3位(2008年度)です。明治時代前期には、伊勢茶は生産高が全国第1位になったこともありました。その頃、生糸と日本茶は日本の重要な輸出品で、日本茶の大半は伊勢茶でした。伊勢茶には、現在も全国第1位のものがあります。それは、「かぶせ茶」と加工用原料茶(アイスクリーム等に使用)の生産量です。

伊勢茶の生産地は、北勢地域と南勢地域に分けることができます。

北勢地域(四日市市、鈴鹿市、亀山市など)では、「かぶせ茶」の生産が特長です。深い緑で日光をさえぎることによって、葉緑素が増え、葉が鮮やかな緑色になります。これによって、まろやかなうまみのあるお茶になります。

南勢地域(松阪市(飯高町・飯南町)・多気郡大台町・度会郡度会町など)では、「深蒸し煎茶」の生産が特徴です。「深蒸し」とは、お茶の葉を蒸す時間を、ふつふつより少しだけ長くすることです。それにより、まろやかな味が出せるのです。

地域によって、工夫をしながら、お茶の生産・加工が行われています。【→P87】



【活用のポイント】

教材「三重の文化」の本文やコラムなどを活用し、事実の確認や検証を行う。

社会科地理的分野②

単元名：日本の諸地域 近畿地方

本時の内容：京阪神と私たちの三重県

関連する箇所：液晶テレビ工場【P29】

大台茶、三重のお茶伊勢茶【P50】

【本時のねらい】

- ・近畿地方の都市の交通や産業が発達してきたようすをとらえ、その歴史的背景を理解することができる。

3班 京阪神と私たちの三重県

1 阪神工業地帯の形成と発展

準備物 亀山モーターの液晶テレビ
・ポリエー - ハウズ - P150の国 田
(P122田)

(1) 資料から阪神工業地帯について読み取り

(2) 新工場 P151田

(3) 三重文化P29液晶テレビ工場を見る

課題 亀山工場が誘致された理由

(5) 道路 広い地 三徳湖の
帯動力 ↓

2冊 今に生きる伝統工芸

(1) 近畿の伝統工芸品を調べよう

活用

(2) 三重の伝統工芸品を調べよう 三重文化 P104-113
伊勢の(1)の手 学習資料 P104-113
場所 歴史
場所

【教科書の資料からの読み取り】

阪神工業地帯

大阪・神戸中心に発達

戦前…せんい工業

戦後…製鉄・石油化学工業

兵庫・和歌山の臨海部へ拡大

電気機械・自動車部品など

京都・奈良・滋賀へ拡大

【活用のポイント】

教科書の資料からの読み取ったことをもと
に、教材「三重の文化」の資料を活用して
教科書の学習内容を深化・発展させる。

亀山市の液晶テレビ工場を例に、内陸型の工業が進出している理由を交通の発達をはじめとした多様な視点から理解させる。



伊勢湾沿岸に臨海型の工業が発達している一方で、東名阪自動車道、名阪国道沿いに内陸型の工業地域が広域化しているようすが理解させる。

社会科地理的分野③

単元名：日本の諸地域 中部地方

本時の内容：三重にみられる二つの工業

関連する箇所：石油化学コンビナート【P17】

液晶テレビ工場【P29】

【本時のねらい】

- ・三重県の北部に発達している工業を成立させている地理的諸条件について考え、地域に果たす産業の役割について理解する。

教材「三重の文化」
を活用したクイズによる導入

導入クイズ

- ① この人は誰でしょう?
- ② 何をした人でしょう?
- ③ 四日市港に関する写真は?
- ④ 稲葉三右衛門が思い描いた夢は何でしょう?

- 選択肢
1. 伊勢湾を埋め立てる
 2. 福井と四日市をつなぐ鉄道
 3. 四日市港と名正港に

展開 (グループ学習)

発問「三右衛門はなぜこのような夢を思い描いたのでしょうか？」

↓ 調べたい

提示する資料

- ・スーパードーム
- ・各種地図

活用

【活用のポイント】



教材「三重の文化」に掲載されている2枚の写真と比較することから、臨海型の工業と内陸型の工業の特徴を確認する。

活用

【活用のポイント】

教材「三重の文化」の掲載内容をさらに発展させた発問を組み合わせ、調べ学習や話し合い活動を通じて、深化させる。

社会科地理的分野④

単元名：日本の諸地域 近畿地方

本時の内容：環境に配慮した近畿地方の農林水産業

関連する箇所：尾鷲ヒノキ【P79】

【本時のねらい】

- ・近畿地方の林業や農業・漁業の特色に関心をもち、環境保全に関わる課題について考察し、その内容を理解する。

5班 『環境に配慮した 尾鷹の林業』

1) 尾鷹ヒノキの特徴



・味が甘い。⇒強く丈夫！
・防虫効果 - いぬしの効果

⇒ 建築材

2) 尾鷹の育林 (造林 → 疎開伐 → 主伐 →)



6,000本 ⇒ 600本

3) 尾鷹の森 = FSCの森 …… 説明

4) 尾鷹の森を歩く …… 必ずしも地帯

5) 環境にやさしい開伐材の利用



6) まとめ 『三重の文化』で

パンフレット等の資料

+

テレビ番組の録画
や教材用DVD等

+

特産物 尾鷹ヒノキ

尾鷹市

全国有数の多雨地帯として知られる尾鷹。その恵みの雨が、木材として有用な赤み部分を多く含み、年輪が細かく強靱な良質のヒノキを育んでいます。大台山系を背景に、三重県南部の熊野麓に面した尾鷹地域の林業は歴史が古く、尾鷹市と紀北町にまたがり、ヒノキを主体としています。1624(寛永元)年に人工造林が行われてから約380年余の歴史をもち、熊野麓に面しているという海上交通の利便性から、関東方面との取引が行われていました。特に尾鷹ヒノキの評価を高めたのは、関東大震災において強靱性が立証されたためといわれています。

現在、尾鷹市の市有林等において、環境保全と経済性につながる森林管理を目的とした「FSC認証」^{※1}を取得して、適正な森林管理を行っています。尾鷹市向井には熊野古道の世界遺産登録を記念して、熊野古道センターが建設されました。熊野古道にふさわしい木造の建物とするため、尾鷹ヒノキ・熊野杉など地産産物の材料を使用しています。【→P87】



海と山に囲まれた尾鷹市(尾鷹市役所ホームページより)

※1 FSC認証: 環境、社会、経済の観点から森林管理が適正に行われているかどうかを審査・認証する制度

【→P110+114】

・森林のもつ地球温暖化防止機能、FSCについて詳しく調べてみましょう。

活用

【活用のポイント】

「教材『三重の文化』を本時の学習のまとめとして活用し、相乗効果を得る。

社会科歴史的分野①

単元名：室町幕府と下剋上

本時の内容：室町文化の広がり

関連する箇所：観阿弥創座の地【P79】

北畠氏城館跡【P33】

【本時のねらい】

- ・代表的な事例を取り上げて、室町時代の文化の特色を理解する。
- ・この時代に生まれた文化で現代に受け継がれているものに関心を持つ。

教科書の記述内容

貴族や武家が愛好していた
猿楽や**田楽**などの芸能は、**観阿弥**・**世阿弥**親子が**能**として大成…

「新しい社会歴史」(東京書籍)

活用

歴史

名張市

観阿弥創座の地

猿楽¹⁾、田楽²⁾は中世(鎌倉、室町時代)の代表的な芸能です。それを洗練・発展させて「能楽」にまで高めたのが、猿楽師として有名な観阿弥・世阿弥の父子です。観阿弥は伊賀の地に生まれたといわれ、太田園(現在の奈良県)で活躍しました。後に京都に活動の場を

教科書の記述内容

枯山水とよばれる技法で

つくられた石庭です。庭石の裏には、庭づくりの**川原者**であった二人の名が刻まれています。

「中学社会歴史的分野」(日本文教出版)

活用

枯山水のある築山⇒
(北畠氏城館跡庭園)

山頂との標高差は約240mで、現在は北畠神社



北畠氏城館跡(津田敦實の築山跡)

【活用のポイント】

教材「三重の文化」の本文や写真で、教科書の記述内容や用語の確認をする。

6班 室町文化の広がり

学習内容 指導上の留意点
室町文化、室町建

導入 現代の猿楽の 13代に身近な猿楽
2.3 室町文化について知 関連させる。
茶の湯 中世の芸能(猿楽)

展開/芸能の広がりにはた
猿楽 田楽について知

獅子の関連に気付かせる。
室町文化、p77
観阿弥の創座の地

2. 芸能を始めたのは、
かたがは、
能楽師としての伝承
のなかで、
室町文化、p13
北畠氏城館跡

まとめ 自らが住んでいく地域
について考える。 自らが住んでいく地域
の歴史や行事、史跡について、
おしえてあげる。



社会科歴史的分野②

単元名：産業や交通の発達と幕府政治の変化

本時の内容：農業や諸産業の発達

関連する箇所：松阪商人と松阪木綿【P40】

【本時のねらい】

- ・身近な地域の事例をもとに、農業をはじめとする諸産業の発達の様子を理解させ、それらが発達した理由を考えさせる。

江戸時代の交通と産業の発達

① 資料「越後屋の店売」の様子をみて考える。

現金の渡し 販賣物の荷
人々の行き来の様子

② 実物「松阪木綿」とおぼしめ、郷土の特産品であることをしる



③ 「三重の文化」P40 松阪商人と松阪木綿で確認する。

越後屋の松阪商人三井高利により創業されたことに基づく



④ どのように江戸に松阪木綿が運ばれたのか？

舟 船
津 飛脚

⑤ 当時の交通網を調べる。

五街道(白河回)
西回り航路 東回り航路



浮世絵から往来する人々の様子をおよとせする。
「三重の文化」P40「七重の歴史」を調べる。

⑥ 松尾芭蕉



河村瑞賢



教科書の資料

+

実物資料の提示

+

活用

歴史

松阪市

まつさか 松阪商人と松阪木綿

伊勢商人ともよばれた松阪商人は、大坂、近江と並ぶ日本三大商人のひとつです。16世紀後半から、地元だけでなく大坂、京都、江戸の三都にも店を出し全国へ展開しました。当時、高級生地として飛過し始めていた木綿は重要な商品でした。

500年ほど昔、日本で綿花が栽培できるようになると、広々と水はけがよく、肥料にするイワシにも恵まれた伊勢平野では、見渡す限りの綿花が作られたそうです。松阪木綿の特色である藍色を基調としたモダンな柄柄が江戸庶民に好まれたこともあり、たちまちこの地域は日本を代表する木綿産地となり、「松阪木綿」というブランドを確立していきました。

松阪商人の代表的な存在が三井高利です。高利は江戸に呉服店「越後屋」を出し、三井家の基礎を作った人物です。「現金掛けなし」、反物の切り売りなど革新的な商法を導入して商売を成功させ、やがて幕府の御用商人となり尚書も受命、その地位を不動のものとししました。市内には他にも豪華の建物が残っています。なかでも有名な長谷川家の邸宅などは江戸時代の生活をしのばせ、小津清左衛門の屋敷は「松阪商人の館」として公開されています。



松阪商人の館(松阪市教育委員会提供)

[→P111+55]

・松阪で商業が盛んになった背景を、伊勢地区の存在や交通路から考えてみましょう。

【活用のポイント】

教科書の資料→実物資料→教材「三重の文化」という流れにより、日本全体の歴史の流れを地域の歴史と関連づける。

社会科歴史的分野③

单元名：社会の変動や欧米諸国の接近

本時の内容：外国船の接近と幕府の衰退

関連する箇所：大黒屋光太夫【P26】

【本時のねらい】

- ・江戸時代後半に外国船が接近してきたことに対し、幕府が北方の調査を命じたり、打払令を出したりしたことに気づかせる。

8班「ゆらぐ幕府の支配」

資料: 大黒屋光太夫

① 外国船が来航した事実

外国船来航の状況

- ・来た国は → どんな国があった?
- ・なぜこの時期に来たか
- ・その時の日本(江戸幕府)はどんなしくみ?

② 大黒屋光太夫という人物

- ・写真 → 名前
- ・服装は? → 日本人とちがうところ
↓
外国(ロシア)へ行った人

資料【一部をのこした】「三重の文化」



- ロシアに行つてからの光太夫を知る
 - ・ロシア皇帝と会う → 日本とのギャップ
 - ・2人はキリスト教徒になる → ロシアの方がよい

③ 日本へもどつて来た光太夫

- ・幕府の対応はどうしたと思う?

事実は... → 外国の様子を一部の知識人に伝える

④ 外国船に対する幕府の対応

- ・砲台場
 - ・異国船捕拵令
 - ・北方探検 - 間宮林蔵
- ← 蘭学者の批判

あとは...

天保の改革
藩政改革



活用

【活用のポイント】

教材「三重の文化」の写真の一部（ロシア皇帝エカテリーナ2世から下賜された金印）を隠すことにより、視点を集中させ、思考を深める。

社会科歴史的分野④

単元名：第一次世界大戦と戦後の世界

本時の内容：世界大戦の終結と平和への動き

関連する箇所：尾崎行雄（峯堂）【P54】

【本時のねらい】

- ・第一次世界大戦にかかわる世界の動きと日本の関連や、大戦後の国際平和に向けてどのような努力がなされたのかを考えることができる。

9班 尾崎行雄

<自由民権運動の高潮>

① 自由民権運動

<立憲制国家の成立>

② 第1回 総選挙

<大正内閣の成立>

③ 大正デモクラシー

<日本の中国侵略>

④ 第2次世界大戦

木時 流れ

【活用のポイント】

「三重県 心のノート（中学校版）」を活用し、尾崎行雄の逸話や語録を取り上げ、尾崎の人物像に迫る。

関連

資料プリント

⑧ 尾崎は何と言っている!!

政党の閣

なぜ 原内閣の本格的に
政党の閣と呼ばれたか。

⑨ 国民の政党の閣に期待
した理由

普通選挙法施行

<三重の文化PSA 尾崎行雄>を読む

活用

【活用のポイント】
尾崎行雄の生涯を通じて、日本の近現代史の流れをまとめる。

人物 **尾崎行雄 (号堂)**

伊勢市

尾崎行雄(号堂)は衆議院名譽議員で「憲政の神様」「議會政治の父」とよばれています。神奈川県で生まれ、1872(明治5)年に三重県伊勢市に引越し、宮崎文庫英学校に入学しました。

社会科公民的分野

単元名：わたしたちの生活と文化

本時の内容：くらしに生きる三重の伝統文化

関連する箇所：伝統工芸（四日市萬古焼【P14】など）
年中行事（竈方行事【P58】など）

【本時のねらい】

- ・身近な生活に見られる様々な文化に気付かせ、日本の伝統と文化に関心を持たせるとともに、主体的に伝統的な文化を継承し、新しい文化を創造する態度を育てる。

教材「三重の文化」掲載の伝統文化

【伝統工芸】

四日市萬古焼 (p14)

鈴鹿墨 (p27)

伊勢型紙 (p28)

伊勢根付 (p54)

伊賀くみひも・伊賀焼 (p73)

【年中行事】

竈方行事 (p58)

麻加江かんこ踊り (p64)

松明調進行事 (p77)

活用



伊勢根付 (伊勢市提供)

【活用のポイント】

教科書に掲載されている全国的に有名なものと三重県の題材を対比させてみる。一つを詳しく取り上げその美しさや卓越性に気付かせることで郷土の文化に対する関心が高まり、誇りをもつようになるきっかけとなる。

三重の伝統文化

○写真資料の提示

・伝統文化とは

→生徒に資料の種類を

伝統文化上層にも分ける

○三重の伝統文化上層目印させる

《三重の文化》を活用

・伊勢根付に着目

→「何は何?」

→「三重の文化」で調べる

・他とはどこが違うのか?

→写真資料提示、

→「三重の文化」で

確認しよう!

→もともとの文化は?

明治時代、武人の文化



グループで調べる

○次時グループでの調べる学習を

おこなう準備



伝統文化とは
どこまでを
この文化を
おこえる



理 科

単元名：大地は語る

本時の内容：大地の変化を推測しよう

関連する箇所：月出の中央構造線【P41】

【本時のねらい】

- ・地層、地形などの観察を通じて、地表にみられる様々な事物・現象を大地の変化と関連付けて理解させ、大地の変化について認識を深める。

11班 单元名「大地は語る」

本時の目標

断層やしゅう曲から、大地が過去に力を受けたことを推測する。

説明

・しゅう曲と断層

中央構造線を日本列島の写真から確認

月出の中央構造線

について知る。資料を読み、写真をもとに説明。



【活用のポイント】

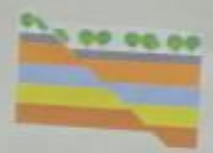
教材「三重の文化」の図や写真を拡大して黒板に掲示し注目させ、着眼点を示しながら説明する。

活用

この地層はどのようにしてできたでしょうか。

・グループで、モデルを作、て考える

話し合い



発表

・根拠を明らかにさせながら、

(発展)

今起きている出来事(活断層、地震、等)へ話題をひろげる。

COLUMN 月出の中央構造線

中央構造線は、関東から九州までの総延長約1000kmにおよぶ日本最大級の断層です。西南日本では、中央構造線をはさんで北側の内帯と南側の外帯の地質が大きく異なっています。中央構造線は、今から約1億年前から活動していると考えられています。その成因は、プレートの沈み込みに起因すると考えられています。三重県内の中央構造線は、現在のところ活断層であるという確実なデータはありません。三重県以外では活断層のところもあります。



月出の中央構造線

三重県内では、鳥羽市志志島の北方、伊勢市、多気町丹生、松阪市飯高町・飯高町を過っています。飯高町月出では、中央構造線の大露頭が見られます。月出の露頭では、内帯側の花こう岩と外帯側の変成岩(三波川変成岩という)がある傾きをもって掘られているようすが観察できます。



中央構造線の位置(三重県立博物館提供)

中央構造線を研究することによって、その性格や日本列島の成立のプロセスを追うことができるとも、この露頭は地球のはく大なエネルギーの産物であることを実感できる絶好の場所です。

技術・家庭科（家庭分野）

単元名：食生活と自立

本時の内容：三重の食文化

関連する箇所：三重のお雑煮【P93】

熊野灘とさんま寿司【P80】

押し寿司【P84】

【本時のねらい】

- ・地域で食べられている行事食や地域で作られている食材について調べ、あらためて地域を見つめ直す機会とし、ふる里のよさを再発見する。

1719E 地域の食材や食文化について

〈導入〉 雑煮の食べ方(味付け・材料
もの形や使いかた)について
発表する。〈三重の文化 P93〉



◎地域による食べ方の違いに
気づく。
◎「郷土食」・「行事食」について
知る。

〈展開〉 ① 地域の特色ある食材や
料理を発表する。(カードに記入)



〈三重の文化 活用〉
◎郷土食 行事食 食材(特産物)
に分類する。
② 三重の文化より、江戸寿司(P96)
押し寿司(P97)を読み比べる。
◎共通点や調理の工夫点をおさ
て発表する。

③ ①を発表したものをそれぞれに
場所(山川 畑 海)に
分類する。⇒カードを分類する。

◎それぞれの地域の風土や
自然の恵みがみえるとおさ
て発表する。

〈おめ〉 自分の地域の食材や郷土食に
ついて 次時までに調べる。

◎調べるポイントとして
地域の食材
田米 作りお(手回) など
を示す。

備考

— ⇒生徒の活動
— ⇒指導上の留意点

活用

【活用のポイント】

三重県内の特色ある文化を比較し、共通点や相違点をあげ、その背景などを考察する。導入から展開までを教材「三重の文化」で教材化できる。